

第2章 産業・雇用分野

農林水産業をはじめ、商工業、サービス産業などがお互いの持ち味を活かしながら地域経済を回し、地域産品を通じた連携などにより新たな産業・雇用を創出し、町民の豊かな暮らしを支え、町全体の活力につながる取組を推進します。また、当町の地域特性を活かした新しい産業の創出・育成に取り組むとともに、働きやすい環境を整備します。

そのため、地元企業・地場産業の競争力強化の取組や意欲ある担い手の確保・育成のほか、経営基盤の強化など持続的な成長・発展ができるよう支援体制等の充実を図ります。さらに、県都青森市に近く、県内各地へのアクセスも良好であるなどの当町の強み・魅力を情報発信して企業誘致の推進に努め、雇用の維持拡大と産業の活性化を図ります。

また、地域の歴史・文化や豊かな自然などの地域資源を活かした体験型観光は、地域経済を活性化させるだけでなく、移住者、定住者を見据えた交流人口の増加に寄与することから、その取組について支援していきます。さらには、スポーツ大会やイベントなど各種行事と観光を結びつける取組などを進めることにより、交流人口の拡大をめざします。

1 持続的な農林畜産業への転換の推進

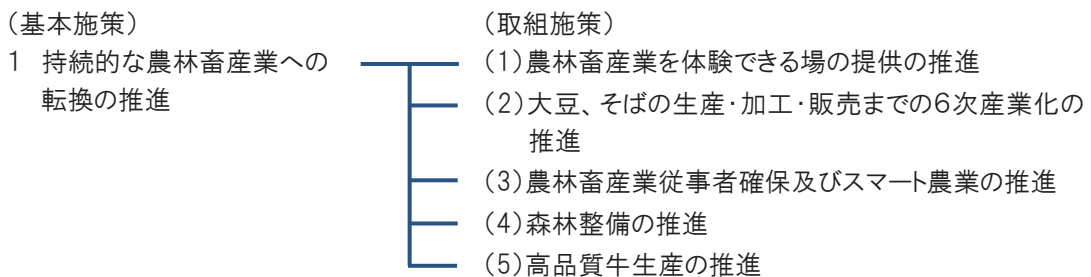
所管課 農政課

■ 現状と今後の課題

当町の農林畜産業は、高齢化による離農や廃業、担い手不足などにより就業人口の減少が続いています。また、気候もヤマセ^{※2}による低温や日照不足など、農耕には良好な条件ではありません。作付面積は水稻が大部分を占め、野菜等の畑作は少数となっています。今後は、所得向上につなげる6次産業化の推進、担い手の確保による農林畜産業を持続的に支える仕組みづくりが必要となります。また、農作業の省力化により少人数でも継続できる農林畜産業への転換が最大の課題となります。

■ 施策の方向性

持続的な農林畜産業への転換のために、(1)農林畜産業を体験できる場の提供の推進、(2)転作田において作付面積の多くを占める大豆、そばの生産・加工・販売までの6次産業化の推進、(3)農林畜産業従事者確保及びスマート農業の推進、(4)森林整備の推進、(5)高品質牛の生産を推進します。



成果指標	現状	目標
▶ スマート農業への取組戸数	取組戸数0戸	取組戸数5戸
▶ 子牛の年間出産頭数	親牛の頭数の概ね4割	親牛の頭数の概ね8割

主な目標	現状	目標
▶ 農作業の省力化に係るICT ^{※21} 等活用機械の導入推進	ICT ^{※21} やロボット技術等を活用した機械の導入農家の実績なし	ICT ^{※21} やロボット技術等を活用した機械の導入農家の増加
▶ 肉用牛について子牛の一年一産 ^{※23} を推進	子牛は三年二産の状態	子牛の一年一産 ^{※23} をめざす

※23 一年一産：母牛が1年に1頭の子牛を産むこと。牛の分娩間隔の目標とされてきた数値。

■ 取組施策の推進

施策(1) 農林畜産業を体験できる場の提供の推進

都市部や他市町村に住む子どもとその家族を対象に、農業に興味のある方々を募集し、実際に体験していただきます。その後、継続的に消費者の立場からの要望や意見交換の機会を設けて交流を深め、将来的に当町での農林畜産業に携わる人口の増加につながるよう取り組みます。

施策(2) 大豆、そばの生産・加工・販売までの6次産業化の推進

大型乾燥機や色彩選別機、汎用コンバインを導入した「大豆」や「そば」の生産・加工・販売までの6次産業化を推進します。また、観光やその他事業と連携し、イベント等を通じて地域農産物ブランドのPRなど情報発信を行います。

施策(3) 農林畜産業従事者確保及びスマート農業の推進

労働力不足を解消するため、青森農業協同組合で実施しているマッチングを活用し、障害者就労施設等との農福連携^{※17}とともに、多様な人材を積極的に雇用すべく外国人材の登用を推進します。併せてICT^{※21}やロボット技術を活用し、農作業の省力化、省人化を実現するためスマート農業を推進します。

施策(4) 森林整備の推進

森林経営管理法を踏まえ、町が管理しなければならない森林等で間伐や植樹等の整備を行うことにより、山から川、また、海へとミネラル成分が陸奥湾に流れ込むこととなり、当町の特産品である良質なホタテガイを育むことにつながる森林の有する諸機能を維持していくため、森林整備を推進します。

施策(5) 高品質牛生産の推進

肉用牛については、高価販売を目標とし、良質繁殖雌牛の整備と人工授精による系統の組合せを考慮し、一年一産^{※23}を推進します。

乳用牛については、未經産牛の出産リスク回避のため黒毛和牛の人工授精、及び経産牛では優良な雌牛を生産するため受精卵移植を推進します。

■ 協働の役割

町民	○都市部や他市町村からの移住者や就農者を応援します。
地域	
事業者	○農林畜産業に興味のある方々が農作業体験や農家と交流できるような受入れ体制の構築をめざします。

2 水産業の振興

所管課

水産商工観光課

■ 現状と今後の課題

当町は「養殖ホタテガイ水揚げ日本一のまち」として、2018（平成30）年の総水揚げ実績では約40,260トン（約75億円）となって、生産量の99.2%が養殖ホタテガイであり、青森県全体では約半分を占めております。しかし、当町のホタテガイ養殖経営体（漁業者）は少子高齢化を反映して減少傾向にあり、2013（平成25）年から5年間で41戸（8.1%）減少し、漁業後継者対策強化に取り組む必要があります。

また、機械化による省力化が進む一方、ホタテガイ養殖作業の共同化、組織化を視野に入れた検討が急務となっており、関係機関と連携しながら進める必要があります。

地産地消の促進としては、成員（耳吊り、箆）の生産技術を改善し、生産量を増やし、高品質化や高付加価値化を図り、地域ブランド力の強化や流通基盤の強化に努め、関係機関と連携しながら新企画商品開発等への支援に取り組む必要があります。

■ 施策の方向性

当町の主産業である「養殖ホタテガイ水揚げ日本一のまち」を持続可能なものとするため、①漁業後継者対策強化、②漁業生産基盤の充実、③地産地消の促進、④管理型漁業の推進を掲げ、以下の取組施策を推進していきます。

（基本施策）

2 水産業の振興

（取組施策）

- (1)「養殖ホタテガイ水揚げ日本一のまち」の漁業後継者対策強化
- (2)「養殖ホタテガイ水揚げ日本一のまち」の漁業生産基盤の充実
- (3)「養殖ホタテガイ水揚げ日本一のまち」の地産地消の促進
- (4)「養殖ホタテガイ水揚げ日本一のまち」の管理型漁業の推進

➤ 成果指標	現状	目標
➤ 漁業生産額	50億円	60億円
➤ 漁業後継者の就業支援者数	0人	20人
➤ 新企画商品の開発	0件	10件

〉主な目標	現 状	目 標
〉「養殖ホタテガイ水揚げ日本一のまち」から「養殖ホタテガイのまちづくり日本一のまち」へ	養殖ホタテガイ水揚げ日本一	養殖ホタテガイ水揚げ日本一を持続しながら ①漁業後継者対策強化 ②漁業生産基盤の充実 ③地産地消の促進 ④管理型漁業の推進 を掲げ「養殖ホタテガイのまちづくり日本一のまち」へ取り組む

■ 取組施策の推進

施策(1)「養殖ホタテガイ水揚げ日本一のまち」の漁業後継者対策強化

後継者が働きやすい環境づくりや新規就業者の受け入れ体制づくり、ホタテガイ養殖の魅力を地域の子どもの伝えるための体験学習の強化、漁業権の取得に関する検討を行うなど、後継者の確保に取り組めます。



保育園児ホタテガイ耳吊り体験

施策(2)「養殖ホタテガイ水揚げ日本一のまち」の漁業生産基盤の充実

ホタテガイ養殖漁業を当町の基幹産業として維持・発展させるため、衛生管理施設の整備の検討、施設の老朽化対策等を進めるなど、漁業生産基盤を充実させます。

施策(3)「養殖ホタテガイ水揚げ日本一のまち」の地産地消の促進

平内ホタテガイの高付加価値や流通基盤強化、新企画商品開発に向けた取組を行い、ほたて広場、ひらないまるごとグルメ館をプラットフォームとして、地産地消に努めながら、地域ブランドの情報発信と消費拡大に取り組めます。



ほたて広場とひらないまるごとグルメ館

施策(4)「養殖ホタテガイ水揚げ日本一のまち」の管理型漁業の推進

ホタテガイ養殖の作業の共同化や組織化を視野に入れた取組を行い、ホタテガイの大型化と安定した生産体制の構築に取り組みます。

■ 協働の役割

町 民	○ホタテガイ養殖の理解と陸奥湾の環境保全に協力します。
地 域	○ホタテガイ養殖の理解と陸奥湾の環境保全を周知します。
事業者	○ホタテガイ養殖の理解と陸奥湾の環境保全を推進します。

3 商工業の振興

所管課 水産商工観光課

■ 現状と今後の課題

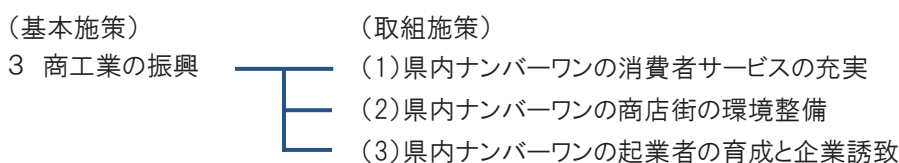
商工業は、人々の消費生活に密接に関わり、雇用やにぎわいの創出など、地域活性化にとって重要な位置づけにあります。しかし地方では、高齢化による買物弱者の増加、インターネット通販の急速な浸透や大型商業施設の出店など、商工業を取り巻く環境は著しく変化しており、とりわけ中小企業の経営は年々厳しさを増しています。また、人手不足の深刻化により、全業種において人材確保が困難となっています。

当町も例外ではなく、地方と同様の変化が起きており、商工業を取り巻く環境は大きく変化しています。地元の商店街にとって厳しい状況が続き、中小企業は人手不足の深刻化により、いかに事業承継を進めるかが今後の課題となっています。

商工業の振興に関する課題は、融資に係る利子補給及び保証料補助の継続的な支援や県の融資制度の周知・活用の促進、さらに起業や新産業創出へのサポートや地域に密着した商店経営への支援について商工会と連携して取組を進めていく必要があります。

■ 施策の方向性

地域の特徴を生かした県内ナンバーワンをめざし、①消費者サービスの充実、②商店街の環境整備、③起業者の育成と企業誘致、これら3つの目標を掲げ、取組施策を推進していきます。



成果指標	現 状	目 標
➤ 県内ナンバーワンの消費者サービス顧客満足度	0%	50%
➤ 県内ナンバーワンの商店街の環境整備満足度	0%	50%
➤ 県内ナンバーワンの起業者の育成と企業誘致数	0%	50%

» 主な目標	現 状	目 標
<p>▶ 県内ナンバーワンの商工業の推進</p>	<p>高齢化による買物弱者の増加、インターネット通販の急速な浸透や大型商業施設の出店、後継者不足による閉店</p>	<p>地域の特徴を生かした、 ①消費者サービスの充実 ②商店街の環境整備 ③起業者の育成と企業誘致による「県内ナンバーワンの商工業」の推進に取り組む</p>

■ 取組施策の推進

施策(1) 県内ナンバーワンの消費者サービスの充実

商工会と連携しながら、消費者ニーズに的確に応えられる情報提供や、買物弱者へのアフターサービスの徹底など、小規模だからこそそのメリットや地域の特徴を生かし、県内ナンバーワンの消費者サービスの充実を推進します。

施策(2) 県内ナンバーワンの商店街の環境整備

既存商店街と連携を図りながら、にぎわいの場の再生と創造を支援することにより、誘客や販売促進へつなげ、県内ナンバーワン商店街として環境整備を推進します。



ひらない MirAi 商店街

施策(3) 県内ナンバーワンの起業者の育成と企業誘致

融資制度の活用促進によって経営基盤の強化を図るとともに、後継者の育成等を推進します。また、起業者や既存企業の新分野進出に対する支援に力を入れ、県内ナンバーワンの起業者育成と企業誘致を促進します。

■ 協働の役割

町 民	○「商店街のにぎわい」と「地元消費のススメ」に協力します。
地 域	○「商店街のにぎわい」と「地元消費のススメ」を周知します。
事業者	○「商店街のにぎわい」と「地元消費のススメ」を促進します。

4 観光の振興

所管課 水産商工観光課

■ 現状と今後の課題

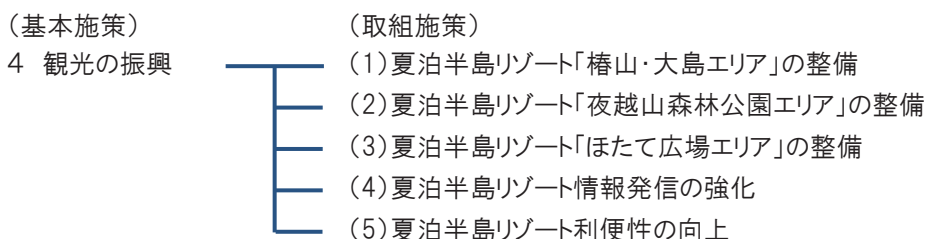
当町では、2015（平成27）年に新・ご当地グルメ「平内ホタテ活御膳」のデビュー、2018（平成30）年には「ひらないまるごとグルメ館」を整備するなど、特産品を活用した観光コンテンツ^{※24}の充実に取り組んでいます。

また、夏泊半島などの地域資源を生かしたサイクリングやカヤックなどのアクティビティ^{※16}などの観光メニューの充実に取り組むほか、地域の各団体と協働して「ほたて」にちなんだイベントも開催しています。近年、景観を楽しむだけでなく体験型観光へのニーズが高まっており、地域の特徴を生かした体験型観光の充実や、歴史・文化にふれあう観光メニューなど、持続可能な観光メニューの創出が課題となっています。

今後は、夏泊半島を四季を通じて楽しめるテーマパークとして再編するなど、既存の観光施設を最大限活用しながら開発を進めます。また、衛生的な施設整備や観光地までの2次交通の整備等、リピーターになってもらえるような取組について、関係機関と協議しながら推進する必要があります。

■ 施策の方向性

観光の振興では、「夏泊半島リゾート」を、全国から観光客が訪れる観光名所とするため、①「椿山・大島エリア」の整備、②「夜越山森林公園エリア」の整備、③「ほたて広場エリア」の整備、④情報発信の強化、⑤利便性の向上を掲げ、5つの取組施策を推進します。



成果指標	現状	目標
観光入込客数(平内町)	20万人	30万人
観光入込客数(外国人)	0人	1万人
観光客宿泊客数	2,500人	5,000人
新規観光プログラム	0件	5件

※24 コンテンツ：中身。内容物。

▶ 主な目標	現状	目標
▶ 夏泊半島リゾート計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・観光プログラムのマンネリ ・既存施設の老朽化 ・情報発信の不足 ・利便性の悪さ 	<p>「夏泊半島リゾート」を全国から観光客が訪れる観光名所とするため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「椿山・大島エリア」の整備 ②「夜越山森林公園エリア」の整備 ③「ほたて広場エリア」の整備 ④情報発信の強化 ⑤利便性の向上 <p>を掲げ、計画を推進する</p>

■ 取組施策の推進

施策(1) 夏泊半島リゾート「椿山・大島エリア」の整備

国の特別天然記念物に指定されている浅所海岸と、ツバキ自生北限地帯である椿山、夏泊半島の突端である大島を「椿山・大島エリア」として、今ある海岸線や自然環境をそのまま観光資源として活用し、公衆トイレの改修やサイクリングコースの整備を行います。

施策(2) 夏泊半島リゾート「夜越山森林公園エリア」の整備

通年で楽しむことができる観光スポットとして、特にスキーなど冬期観光プログラムの充実や新たなアウトドアスポーツ等の施設整備を行います。

施策(3) 夏泊半島リゾート「ほたて広場エリア」の整備

「ほたて広場」と「ひらないまるごとグルメ館」を平内ホタテガイの食のエリアとし、観光プログラムを充実し、体験型観光の拠点として新たなメニューの創出に取り組みます。

施策(4) 夏泊半島リゾート情報発信の強化

当町の観光スポットを、様々な媒体を活用してPRしていきます。SNSによる情報発信、パンフレットやポスターの作成、ホームページの充実、メディア取材の受入れなどを推進し、「見やすく、わかりやすい」観光案内版の整備も進めます。

施策(5) 夏泊半島リゾート利便性の向上

観光で訪れた方々が快適に周遊できるよう、2次交通の整備を行います。

■ 協働の役割

町民	
地域	○「県内ナンバーワンのおもてなしのまち」をめざします。
事業者	